

四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校

新座市立第四中学校学校だより 令和7年12月1日 第9号

TEL 048-477-6053 URL www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon



「音への心遣い」

校長 大井 敏彰

【四中生の地域貢献】

11月は四中生が地域に貢献する場面がありました。2日の「柳瀬川ふれあい祭り」では、吹奏楽部が迫力あるマーチングやダンスを交えた愉快的な演奏で、地域を盛り上げました。翌日のクリーン作戦では早朝から約30名の四中生が参加し、地域の方々と共に花火のゴミを拾い、校庭をきれいにしてくれました。



【11.2 吹奏楽部 至極の演奏（全国大会演奏曲）】

15～16日の「ふれあい防災キャンプ」では、26名の中学生が参加して、防災について学んだり地域の方と共に宿泊したりしました。うち10名は地域のボランティアスタッフとして運営に参加し、高齢の方や障がいのある方と共に「地域の力」として活動しました。

普段の学校生活では見られない四中生の姿を目の当たりにして、中学生が地域に貢献することの意義を改めて感じる事ができました。

【普段の学校生活で気になること】

現在は、2学期の学校行事や地域活動が終わり、生徒たちは普段通りの学校生活を送っています。私は「教室訪問」といって、教頭と共に各先生方の授業を1時間ずつ参観させてもらっています。（その様子は学校ホームページ「校長室より」で紹介していますので、是非ご覧ください。）先生方がICT端末を効果的に活用しながら、工夫された授業が展開される中、生徒たちも自分の考えを表現したり、友達と話し合ったりしながら、学びを深めている様子が

見られます。その中で、少し気になることがありました。それは、学校生活の中で賑やかになることはいいのですが、度が過ぎて騒がしくなってしまう場面が散見されることです。そこで次のことを全校朝会で生徒に伝えました。

休み時間を含む普段の学校生活で、次のような場面が散見されます。

- ・必要以上に大きな声で話す。
- ・興奮してとっさに悲鳴や奇声をあげる。
- ・無意味に手をはたく。足を踏み鳴らす。

子供らしい場面ではありますが、これらの表現は、「感情的で意味や目的がない」「場面や状況を考えていない」といった特徴があることから、自分本位で幼い言動であると感じてしまいます。また、このような音を不快に捉えてしまう人も少なくないと思います。

2学期の行事が終わって過ごす残り1か月、3年生は進路を見つめる大事な1か月に四中生に伝えたいことは「音への心遣い」です。椅子を静かにしまう。授業が早く終わっても騒がない。階段を移動するとき音が響かないように移動する。机の上に物を置くときドンと強い音を立てない。どの場面も音は出てしまいますが、周りのことを考え、音をコントロールすることで、音を通してその人の「心遣い」が伝わります。

一人一人が出す音を意識することで、「メリハリのある行動」や「学校や教室への安心感」にもつながります。

12月は「音への心遣い」を意識して行動することで学校生活の向上を図り、落ち着いた状態で終業式を迎えてほしいと思います。

【部活動の地域展開について】

「部活動の地域展開」について、先月、新座市教育委員会から、今後の活動に関するリーフレットが示されました。来年度からの活動概要については、右の二次元コードを読み取ってご確認ください。

